

# 男女共学による保育領域の指導に関する研究

## —— 評価に基づく指導の改善 ——

久我俊子

### I はじめに

人間としてのよりよい生活観を育て、よりよい家庭生活を実践していく人間の形成が家庭科教育の目標であるが、生命を育てる営みに直接関係があり、人間形成の基盤となる幼児期の保育に関する内容は、家庭科教育の中でも極めて重要なものと考えられる。

自我の確立しつつある中学生にとって、幼児に与えられた適切な環境、教育、人とのかかわりあい、社会のあり方などが、心身の発達や成長の上にもどのように影響するかを知ることは、自分の成長過程を知る上からも、また人間への理解を深める上でも極めて大切なことである。このような視点に立つと、保育学習は女子のみのものではなく、男女が共に学ぶ中でよりよい成果を見られるものと考えられるので、本校では3年前から男女共学による保育学習を実施している。

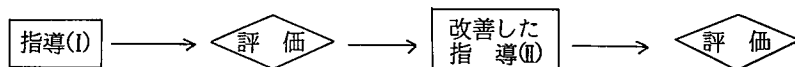
しかし、核家族化、寡産化傾向などの影響で、大部分の生徒は家庭の中で幼児と接する機会が少なくなっており、体験に照らして実感をもって学びとることのできない現状である。女生徒でも「幼児は好きだ、かわいい」とする者が多いものの、それらは極めて漠然としたものであり、幼児に対する考え方は観念的で、関心や理解度の低い者が多い。また、男子では「保育は母親（女性）がやるものだ」という意識を持っている者も半数近くいるため、学習意欲は女子よりもかなり低い。

このような実態の中で、生徒が自主的に学習に取り組み、学習効果を高めるためのさまざまな実践が試みられており、視聴覚教材利用の保育学習の試み<sup>①</sup>もその1つであるが、ここでは、生徒の実践を通して学ばせるため、幼稚園見学や、保育所実習などの体験学習を取り入れた指導を試み、若干の成果が得られたのでここに報告する。

### II 研究方法及び対象

#### 1. 研究方法

この研究は、同時期に二つの異った指導法によって展開したものではなく、先に指導(I)によって展開し、形成的評価を行った結果から問題点を見出し、指導法の改善を試みたものを指導(II)とし、両者の差異を考察した。



① 1クラスの男女それぞれ半数ずつをもってAグループ、Bグループとし、Aが電気学習している間にBは保育学習をし、20時間終了後に、A、Bが交替する。指導(I)（統制群と呼ぶ）はAグループ、指導(II)（実験群と呼ぶ）はBグループ（いずれも昭和58年度）である。

(1) 学習過程

時間	目 標	学 習 活 動		備 考
		指 導 (I)	指 導 (II)	
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 保育学習の意義がいえる</li> <li>◦ 幼児の身体的な発達状態がいえる</li> <li>◦ 幼児の運動能力、言語、情緒、社会性の発達がいえ、それらが保育と深い関係にあることがいえる</li> </ul>	<p>保育学習の必要性について考え、この学習の目標や内容を知る</p> <p>↓</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;">16ミリフィルム「幼児の遊び」を見て、気づいたことを話し合う</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;">幼稚園見学をして気づいたことを話し合う</div> </div> <p>↓</p> <p>母子手帳により、自分の誕生のようすを知るとともに、幼児期の身体的発育を知る</p> <p>↓</p> <p>VTRを見て、幼児の運動能力、言語、情緒、社会性の発達について知る</p> <p>↓</p> <p>形成的評価</p>		<p>保育学習の意義を意識させるような事前調査も行う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育学習の必要性</li> <li>・ 家庭での保育の責任</li> <li>・ 保育に対する親のあり方</li> </ul> <p>・ 母子手帳を活用して幼児期をふり返らせる</p> <p>・ 幼稚園児の生活を写したVTRを使用</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 遊びの重要性や、遊びの内容・種類がいえる</li> <li>◦ 心身の発達を助長するおもちゃを考案設計することができる</li> <li>◦ 安全なおもちゃを製作することができる</li> <li>◦ 幼児と積極的に遊んでやることができる</li> <li>◦ 望ましい生活習慣のつけ方がまとめられる</li> <li>◦ よい遊び場の条件がいえる</li> </ul>	<p>幼稚園児の遊び(年齢別)を映したVTRを見て、遊びの意義や遊びの種類についてまとめる</p> <p>↓</p> <p>おもちゃの役割や、よいおもちゃの条件について考える</p> <p>↓</p> <p>おもちゃ作りの考案設計をする</p> <p>↓</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;">運動遊びに使う遊具をつくる</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;">構成遊びに使う遊具をつくる</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;">模倣遊びに使う遊具をつくる</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;">受容遊びに使う遊具をつくる</div> </div> <p>↓</p> <p>自作のおもちゃを使って幼児と遊ぶ</p> <p>↓</p> <p>おもちゃの選び方や、与え方、遊びを通しての生活習慣のつけ方について知る</p> <p>↓</p> <p>自然物を作った遊び、屋外の遊び、遊び場について知る</p> <p>↓</p> <p>形成的評価</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 知識・理解はペーパーテスト</li> <li>・ 保育学習への意識の深まりや意欲はアンケート形式、及び感想文にて</li> </ul> <p>・ 男女混合で3～4人のグループによる協同製作をさせる</p> <p>・ 幼稚園や乳児院に自作のおもちゃを持って行っていっしょに遊ばせる</p> <p>・ 幼児と共に遊んだ体験の中から感じとったものを通して習慣づけをまとめる</p>

男女共学による保育領域の指導に関する研究

(2) 研究期間

指導Ⅰ（統制群） 昭和58年4月11日～5月30日

指導Ⅱ（実験群） 昭和58年6月2日～7月17日

(3) 事前調査・事後調査（評価）

（調査1）

保育学習に入る前と、20時間の学習終了後に、幼児に対する親愛感や、保育学習への興味、保育学習の価値意識、保育責任などの意識等を調査した。（調査問題は資料1参照）

（調査2）

学習終了後に、認知面（学習内容の把握度）の調査を行なった。（問題は資料2参照）

（調査3）

学習小項目の終了毎に、学習への興味や、意欲、価値意識、効果などについて調査した。

（資料3参照）

（調査4）

学習終了後に、保育学習全般について自由記述させた。（結果の項参照）

（調査5）

映画を見せた統制群と、幼稚園見学をさせた実験群にそれぞれ感想文を書かせた。

2. 研究対象

(1) 島根大学教育学部附属中学校 3年生男女 計170名

統制群 男子43名 女子42名 計85名

実験群 男子43名 女子42名 計85名

(2) 統制群と実験群間の比較

	対 象	人 数	①知能テスト		②事前調査(1)	
			平均	S. D	平均	S. D
統制群	3年各組A班男女	85	57.2	6.17	24.8	5.91
実験群	3年各組B班男女	85	58.8	6.06	23.1	6.24

①  $t_0 = 1.69 < t_{0,01}$

②  $t_0 = 1.81 < t_{0,01}$

この表に示す通り、知能テスト及び、保育学習に関する生徒の意識調査の結果共に両群間に有意の差は認められなかった。

Ⅲ 研究結果

1. 学習前と学習後の比較（意識調査）（調査問題は資料1参照）

幼児に対する親愛感、保育学習への興味、保育学習への価値意識、保育責任などの意識について、学習前と学習後の結果をまとめたものを、次頁表1に示した。この中の質問5については、順位を1位にあげた項目には3点を、2位にあげた項目には2点を、3位にあげた項目には1点を、それぞれ与え、その平均点を出して比較した。

幼児に対する親愛感の学習後の調査は、指導計画中の小単元「幼児の心身の発達」5時間が終了した時に実施したものである。

表1. 保育学習についての生徒の意識

質問(解答)		統制群		実験群		質問(解答)		統制群		実験群	
		学習前	学習後	学習前	学習後			学習前	学習後	学習前	学習後
1. 親愛感	ア大変好き	18	30	17	28	4. 保育の責任意識	ア.父 親	1	0	0	0
	イ好き	47	53	46	56		イ.母 親	10	1	8	2
	ウどちらでもない	24	13	26	11		ウ.父親が主、母親も	2	0	3	1
	エきらい	9	4	8	5		エ.母親が主、父親も	36	41	41	39
	オ大きらい	2	0	3	0		オ.父・母どちらも同じぐらい	49	58	45	58
2. 興味	ア興味がある	56	63	54	69	5. 保育に対する親のあり方	カ.わからない	2	0	3	0
	イどちらとも言えない	38	33	39	28		ア.円満な家族関係	2.1	2.3	2.0	2.2
	ウ興味がない	6	4	7	3		イ.夫婦の協力	0.9	1.0	1.0	1.2
3. 価値意識	ア役に立つので必要	41	77	38	79		ウ.理性的な育て方	0.3	0.3	0.4	0.3
	イどちらでもない	40	19	42	20		エ.親としての愛情	1.8	1.9	1.7	1.9
	ウ必要とは思わない	7	2	9	1	オ.子どもの人格尊重	1.1	0.8	0.9	0.9	
	エわからない	12	2	11	0	カ.経済的安定	0.7	0.4	0.6	0.4	
						キ.その他	0.1	0	0	0	

(注) 1～4は85人中の%、5については平均値)

2. 指導I(統制群)の学習(20時間)終了後の感想文のまとめ

保育学習全般について (プラス徴候)					
内 容		人数	内 容		人数
意 欲 ・ 態 度	1. 幼児への積極的なはたらきかけをする(笑顔、相手をする、気にかけるようになった)	15	も の  学 習 の 価 値 意 識 や 効 果	6. おもちゃ作りの時間は足りなかった、もっと時間をとってやりたい	11
	2. よい保育者になろうとする心構えをもつ(学習したことを生かそうとする)	28		1. 保育の重要性を感じた	20
	3. 幼児に対するイメージの変容	6		2. 保育はむずかしいが大切なもの	7
	4. 発展的学習への意欲をもつ(もっと……がしたい)	20		3. 大変だが、やりがいがある	5
	5. 保育学習への意欲の変容(マイナスからプラスへ)	16		4. 楽しかった、おもしろかった	19
指 導 方 法 に 関 す る	1. VTRや映画の利用はよかった	10	5. 保育する心やしつけの重要性がわかった(具体的内容のあるもの)	21	
	2. おもちゃづくりはよかった	21	6. 保育の学習をして大変よかった(ばく然としているもの)	25	
	3. 保育所に行ったことは大変よかった	63	7. 両親への感謝の気持ちをもった	13	
	4. 男女共学でよかった	8	8. 幼児期をふり返ってよかった	6	
	5. グループ学習は楽しかった。	4			

男女共学による保育領域の指導に関する研究

保育学習全般について (マイナス徴候)					
内 容		人数	内 容		人数
1. 「幼児のからだやこころの発達」の学習はおもしろくなかった。		7	3. おもちゃ作り、保育所行き、以外の学習はあまりおもしろくなかった。		5
2. 情緒や社会性の発達などはわかりにくかった。		3	4. 保育学習の必要を感じない。		2

3. 知識理解に関する調査 (テスト問題は資料2参照)

テスト50点満点で採点し、平均点を出した。

	人 数	平 均	S . D
統制群	85	41.8	4.81
実験群	85	43.5	5.12

$$t_0 = 2.21 < t_{0.01}$$

1%水準で有意の差は認められない。

4. 小単元「幼児の身体の発育」及び「運動能力・言語・情緒・社会性の発達」の学習終了後のアンケート結果(資料3参照)(5段階で記入させたものを3段階にまとめた。)

	項 目	統制群	実験群	$\chi^2$ 検 定
1. 授業は楽しかったか	楽しかった	19人	34人	$\chi^2 = 6.21 > \chi^2_{0.05}$ ※有意差あり
	ふつう	49	37	
	楽しくない	17	14	
2. 内容はわかりやすかったか	わかりよい	34	39	$\chi^2 = 0.84 < \chi^2_{0.05}$
	ふつう	39	37	
	わかりにくい	12	9	
3. 学習に対する取り組み方(態度)はよかったか	よかった	22	41	$\chi^2 = 9.26 > \chi^2_{0.05}$ ※有意差あり
	ふつう	52	35	
	悪かった	11	9	
4. この学習は役に立つと思うか	役に立つ	52	56	$\chi^2 = 0.56 < \chi^2_{0.05}$
	ふつう	26	24	
	役に立たない	7	5	
5. これに関することをもっと学習したいと思うか	もっとしたい	11	13	$\chi^2 = 0.58 < \chi^2_{0.05}$
	ふつう	51	53	
	したくない	23	19	

5. 映画 16 ミリ「幼児の遊び—今と昔—」を見せた統制群と幼稚園見学をした実験群のそれぞれについてその終了後書かせた感想文の内容をまとめたもの。(主なもののみ。)

統 制 群	実 験 群
映画「幼児の遊び—今と昔—」を見た感想	幼稚園見学後の感想
<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 昔の遊びのほうがおもしろい</li> <li>◦ 遊びは子どもが考えて遊ぶほうがいい</li> <li>◦ 今の子どもは、のびのびと遊べなくてかわいそうだ</li> <li>◦ こどもは遊びを作り出す天才だ</li> <li>◦ 親が子どもといっしょに遊んでやることは大切なことだ</li> <li>◦ 親があんまり手を出しすぎるのは子どもにとってよくないことだ</li> <li>◦ 子どもの頃の遊びを思い出した</li> <li>◦ 子どもは無邪気でかわいいものだ</li> <li>◦ 親が子どもにおもちゃを作ってやるのはいいことだ</li> <li>◦ 今の子どもは、遊び場がなくてかわいそうだ</li> <li>◦ 遊び場は与えてやらないと危険だ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 子どもはよく動きまわるものだ、疲れないのか</li> <li>◦ 自分にもあんな時があったのか</li> <li>◦ 幼児はやっぱりかわいい。もっと遊んでやりたい</li> <li>◦ いろんな性格の子どもがいる</li> <li>◦ 幼児はいろんな遊びを作り出すものだ</li> <li>◦ 幼児のことはわかりにくい。—勉強したい</li> <li>◦ 子どもは何を考えているかわからなかった。こどもの心を勉強したい</li> <li>◦ 3歳児と5歳児では遊び方がちがっていた</li> <li>◦ 楽しかった。また行きたい</li> <li>◦ 幼児と遊ぶのはきらいだったけど、遊んでいるうちに少し変ってきた</li> <li>◦ 子どもの頃の性格は、大人になっても変わらないだろうか</li> <li>◦ 幼児の勉強をすると聞いてもピンとこなかったが、幼稚園に行つて学習意欲がわいてきた</li> </ul>

#### IV 結果の考察

##### 1. 保育についての生徒の意識調査から

幼児に対する親愛感は、かなり高い。両群共に学習後、さらに好意度が高まっているが、両群間の差は認められない。学習後の、幼児に対する好意度の高まりについては、アンケート結果とも併せて考えると、両群ともに保育所で幼児と接したことによるものと考えられる。

保育学習への興味について、統制群の学習前と後を比較したものと、実験群のそれとを比較してみると、実験群のほうが、有効度指数が高い。これは、実験群で最初に幼稚園見学をしたため、学習意欲が高まり、それが学習全般への興味の持続に大きく影響してきたものと考えられる。

保育学習への価値意識や、家庭における両親の保育責任及び保育に対する親のあり方については、両群共に大きな差は認められない。学習前に「保育は母親」と考えていた生徒が、学習後は、両親の共同責任という考えに変ってきているのも、両群とも同じである。

保育に対する親のあり方については、両群とも、円満な家族関係を第1位にあげ、第2位は親の愛情という認識を持っていることがわかる。

2. 指導Ⅰ（統制群）の学習20時間後の生徒の感想文の分析より

・プラスの徴候についてみていくと

㊦ 学習前に生徒が抱いていた「保育」や「幼児」に対するマイナスのイメージが、この学習によって、プラス傾向に変わっていった。

㊧ 保育の重要性に気づき、積極的に幼児に親しもうとする姿が見られるようになった。

㊨ 幼児の生活全般について望ましい幼児像をめざして努力しようとする構えが見られるようになった。

㊩ 両親への感謝の気持ちを抱き、将来の生活に向って成長しようとしている生徒が多数見られる。

㊪ 保育所での体験は貴重なものであり、この学習では欠かすことのできないものである。

・マイナス徴候について

幼児の身体の発達や、情緒、社会性の発達など、知的理解に関わる学習には興味を示さないものが約15%いることがわかる。このことを反省して、指導の改善を試み、幼稚園見学をとり入れることにした。（実験群）

3. ペーパーテストによる認知面の評価

実験群のほうが、幾分得点は高いようにも思われたが、検定の結果1%の危険率で有意の差は認められなかった。

4. 小単元「幼児の心身の発達」の学習終了時のアンケート結果を見ると、

幼稚園見学をとり入れた実験群には、「授業が楽しかった」とするものが、統制群より多く、 $\chi^2$ 検定の結果、有意の差が認められた。これは幼稚園見学で幼児と接したことによって興味がわいたのと、その後の教室での学習に用いたVTRが、幼稚園の同じ場面で撮ってきたものであったために、見学場面を再現しながら学習できたことによるものと考えられる。

学習に対する取り組み方が「よかった」とするものが実験群に多く、有意の差が認められるのも、幼稚園での学習のとり組みがよかったことが、あとの学習を活発にさせたと考えられる。

5. 統制群の映画視聴後と、実験群の幼稚園見学後における自由記述の感想文をまとめた結果、  
統制群では、主として幼児の遊び、しかも昔の遊びに好奇のまなこが向けられており、遊びを中心にしている。そのため、幼児への親近感を抱かせ、保育学習への抵抗を幾分柔げるのに役立つにはいるものの十分とは言えないようである。これに対し、幼稚園見学を組み入れた実験群は、幼児の姿を直接観察し、中には話しかけたり、遊んだりしているために、幼児を自分の肌で実感としてとらえ、好感を持ちはじめたものも多い。また、遊びだけに限らず、幼児の観察を多面的に行なっているし、「幼児についてもっと知りたい」という学習意欲に高まっていくようである。

V まとめと今後の課題

学習後の調査（生徒の感想文）の分析・反省から、体験学習をとり入れた指導方法に改善し、

従来の方法との差異を見てきたが、認知面では両群に差は認められなかったものの、学習への興味、意欲といった情意面では、体験学習をとり入れたほうがよいことが確認された。

幼児に関心を持ち、保育の重要性を認識し、積極的に幼児に親しもうとする生徒を育てることは、保育学習の重要な目標の1つである。この目標達成のためにも体験学習の位置づけは大切なことである。

この研究では(資料4)のアンケートの集計を省略したが、今後、これも含め、よりよい保育学習のあり方を追求し続けたいと考えている。

## Ⅶ 参 考 文 献

- (1) 太田昌子・久我俊子・杵多由美子：家庭科教育における視聴覚教材利用の効果について—  
中学校保育領域の場合 島根大学教育学部紀要第10巻 1976. 12
- (2) 北野清美：中学校における保育の指導はいかにあるべきかを求めつつ家庭科教育を問いな  
おす。産業教育内地研修報告書 1981. 3

### (資料1)

1. あなたは小さな子どもが好きですか、きれいですか、1つ選んで○印を下さい。  
 大変好き  好き  ふつう  きれい  大きらい
2. あなたは保育学習に興味がありますか  
 興味がある  どちらとも言えない  興味はない
3. あなたは保育学習は必要だと思いますか。次の中から1つ選び下さい。  
 役に立つので必要だ  どちらでもない  必要とは思わない  わからない
4. 家庭で育児(生まれてから小学校に入るまでの乳幼児の世話やしつけ)の責任はおもにだ  
れにあると思いますか。次の～の中から1つ選び下さい。  
 父親  母親  父親が主だが母親にも責任がある  母親が主だが父親  
にも責任がある  父親、母親どちらにも同じくらい責任がある。  わからない
5. 親として子どもを育てていく場合にたいせつなことはどんなことだと思いますか。たいせ  
つと思うものを三つ選んで、たいせつな順に記入下さい。  
 円満な家族関係を保ち、家族の協力を得る  
 夫婦が保育の責任を自覚し協力する  
 理性的な育て方をするよう心がける  
 親としての愛情をもつ  
 子どもの人格を尊重する  経済的な安定をはかる  
 その他( )

順位	1	2	3
記号			



(資料2) 形式的テスト(5時間終了時の認知面のテスト)

- [1] 次の①～④の文は幼児のからだや運動機能の発達について書いてあります。文章中一部まちがった箇所があります。よく読んでまちがいの部分に線を引いて、正しい答を( )の中に記入しなさい。
- ① 幼児のからだは重心が下の方にあるため安定している。 ( )
- ② 幼児(新生児)の体型はおとなにくらべると、頭の長さが  $\frac{1}{7}$  ( ) という特徴がある。
- ③ 幼児がブランコに立って一人でこげるようになるのは2歳か ( ) らである。
- ④ 乳幼児の運動機能は末梢部から中心部へと発達していく。 ( )
- [2] 次にあげる遊びは何歳ぐらいから始めるようになるのでしょうか。下のア～ウから適当と思われるものを選んで( )の中に入れなさい。
- (1) 積木で2～3人の子どもと遊ぶ ( )
- (2) ままごと遊びができる ( )      ア、1歳未満
- (3) おり紙ができる ( )      イ、1歳～2歳
- (4) がらがらのおもちゃで遊ぶ ( )      ウ、3歳以上
- (5) 動物や乗り物の押し車を押す ( )
- [3] 幼児のこころの発達について、次の各文の( )の中に適当な語句や数字を入れなさい。
- (1) ( )歳のころ「ぶーぶー」「まんま」などの一語文を話しはじめる。
- (2) 生まれて3ヶ月ごろまでは、ただ( )の感情をあらわすだけである。
- (3) ( )歳ごろになると、おそれ、いかり、しっと、喜び、愛情など、おとなのもつひととおりの情緒があらわれてくる。
- [4] 幼児のことばの発達をよくするために、まわりの人はどんなことに気をつけますか。

(資料3) 幼児のからだところの学習について

- |                          |                  |   |             |   |                  |
|--------------------------|------------------|---|-------------|---|------------------|
|                          | か<br>楽<br>し<br>た |   | ふ<br>つ<br>う |   | 楽<br>な<br>い<br>く |
|                          | 5                | 4 | 3           | 2 | 1                |
| 1. 授業は楽しかったですか           |                  |   |             |   |                  |
| 2. 内容はわかりやすかったですか        |                  |   |             |   |                  |
| 3. 学習へのとり組み(態度)はよかったですか  |                  |   |             |   |                  |
| 4. この学習は役に立つと思いますか       |                  |   |             |   |                  |
| 5. これに関する勉強をもっとしたいと思いますか |                  |   |             |   |                  |
| 6. どんなことですか( )           |                  |   |             |   |                  |

幼児のからだの学習について

- |  | 5.    | 4   | 3   | 2     | 1       |
|--|-------|-----|-----|-------|---------|
| 1. 自分の幼児期（母子手帳）をふり返りながらの学習はたのしかったですか     | 大変楽しい | 楽しい | ふつう | 楽しくない | 全然楽しくない |
| 2. 幼児のからだの発達がよくわかりましたか                   | _____ |     |     |       |         |
| 3. 自分の幼児期をふり返ってみたことはよかったですか（役に立つことがあったか） | _____ |     |     |       |         |

おもちゃ製作の学習について

- |                                       |       |  |  |  |  |
|---------------------------------------|-------|--|--|--|--|
| 1. おもちゃ製作は楽しかったですか                    | _____ |  |  |  |  |
| 2. おもちゃ製作の学習は必要と思いますか                 | _____ |  |  |  |  |
| 3. グループで協同しておもちゃ作りをしましたか              | _____ |  |  |  |  |
| 4. おもちゃ作りをしてよかったと思うことはどんなことですか<br>( ) |       |  |  |  |  |

（資料4） 保育アンケート

- 道を歩いている時や、バスの中などで、幼児があなたの方を見ていたらどうしますか。
  - 自分には関係ない子なので全く無視する
  - ちょっと見るが、すぐ目をそらして知らんぷりをする
  - 何もしないで、子どもの様子を見ている
  - にこっと笑顔をしてやる
  - 声をかけてやる
- 幼児が積極的にあなたに近づいて来たらあなたはどうしますか
  - うるさいから知らんぷりをしてにげる
  - だまってじっと見ている
  - 幼児の動作に合わせて相手になってやる
- 見知らぬ幼児が遊んでいるのを見た時あなたはどのようにか
  - 自分には関係ないことだから全然気にならない
  - 少し気になるのでどんな様子かちょっと見る
  - 幼児の動作やことばが気になるので暫く見ている
  - 幼児の近くに寄って話しかけてやる
- あなたの幼児期をふり返ってみてどうでしたか
  - 別に何とも思わなかった
  - 自分の幼児期のことわかっておもしろかった
  - 幼児期のようにすがわかりこんなに面倒をみてもらったのかと驚いた
  - こんなにいろいろ面倒を見て育ててもらったのかと思うと両親への感謝の気持ちがわいた